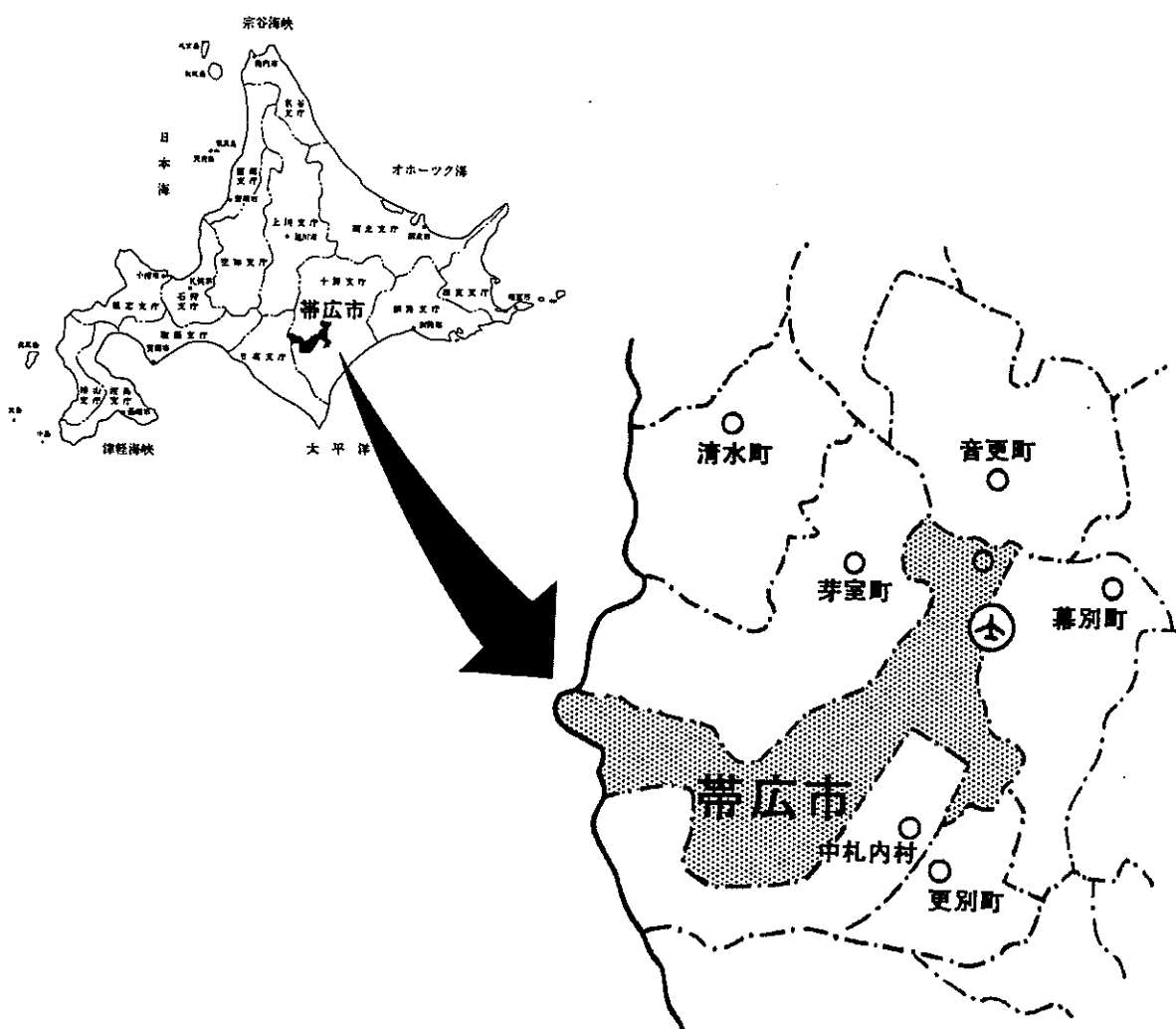


Ⅱ. 帯広市の概要

1. 位置・面積

帯広市は東経 143 度 16 分 19 秒～142 度 41 分 24 秒、北緯 42 度 33 分 25 秒～42 度 56 分 49 秒十勝平野のほぼ中央に位置し、道内第 5 位（17 万人）の人口規模を有す、道東の政治・経済・文化の中心都市である。

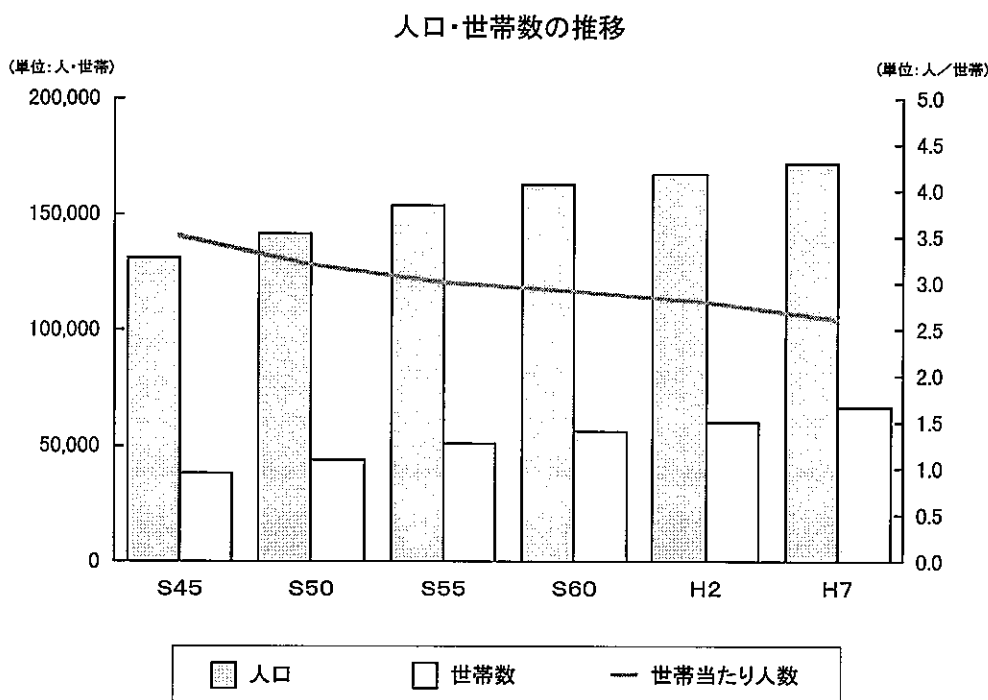
面積は 618.94km² で平坦地が約 60%を占め、その他は、日高山系に属す山岳地帯で構成されている。市街地の中央部には帯広川が、北部及び東部には十勝川と札内川が貫流しており、澄んだ空気と豊富な水に恵まれている。



2. 人 口

(1). 人口・世帯数

帯広市の人口は、平成元年以降伸び率が安定し、年平均約 900 人程度の増加をみせている。世帯数は、人口増加分を差し引いても増加率が高く、世帯あたりの人数推移をみても核家族化の傾向が明らかである。

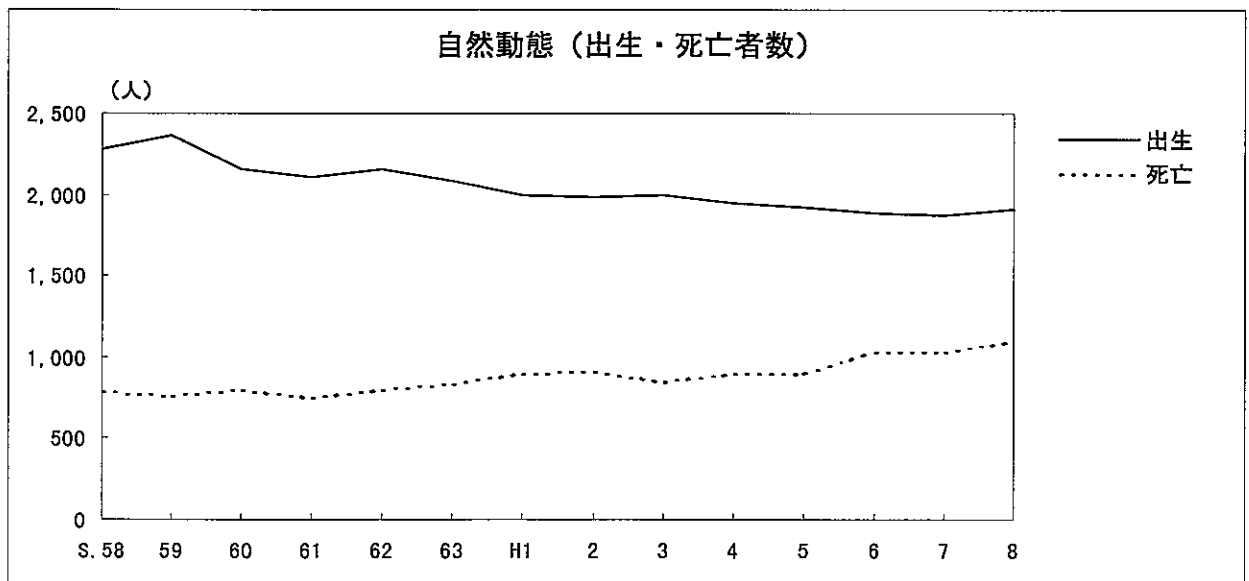
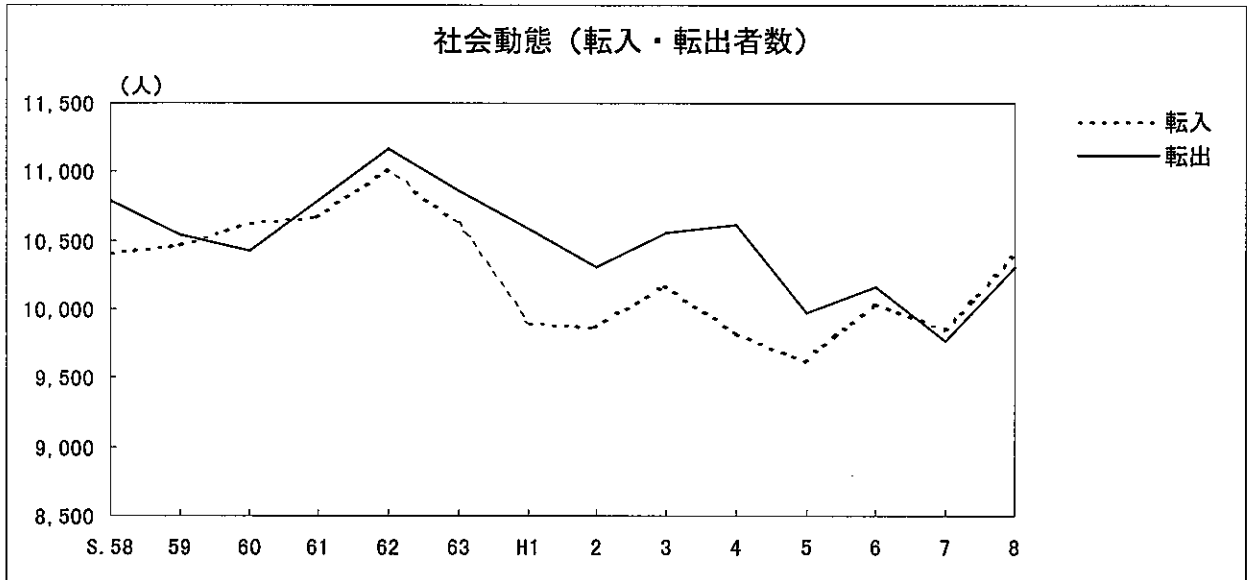


年次	人 口				世 帯			
	総数	男	女	増減率	総数	増減率	世帯当り人数	増減率
昭和55年	153,861	75,628	78,233	年平均	51,451	年平均	2.99人	年平均
60年	162,932	79,721	83,211	1.18%	56,027	1.78%	2.91人	-0.54%
平成2年	167,384	81,027	86,357	0.55%	60,431	1.57%	2.77人	-0.96%
7年	171,715	83,079	88,636	0.52%	66,687	2.07%	2.57人	-1.44%
10年11月	174,704	84,881	89,823	0.35%	73,893	3.60%	2.36人	-1.63%

帯広市統計書

(2) . 人口動態

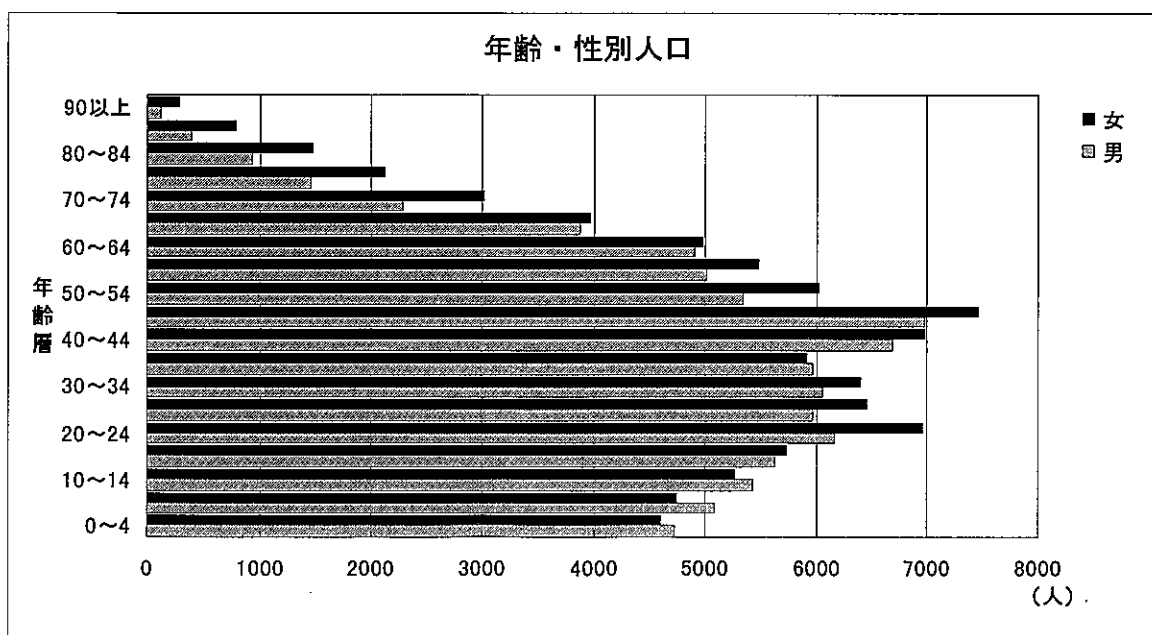
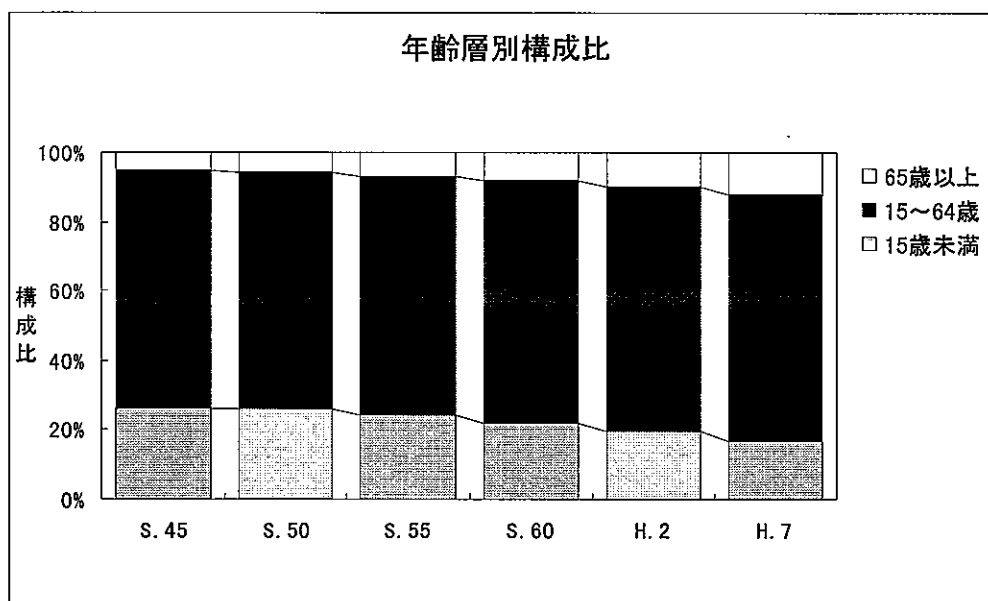
昭和 59 年以降自然増が続いているが、一方出生率の低下に伴い、その割合が減少している。



(3) . 年齢別人口

15才未満の若年人口は、年々減少しつづけ、昭和50年度26%の構成比が平成7年度では、17%に、逆に高齢人口は増えつづけ、昭和50年度6%の構成比は、平成7年度では、12%にまで上昇している。いわゆる高齢化・少子化現象である。

15才以上65才未満の就労人口は全体の約71%占め安定した水準を保っている。



3. 気 象

帯広市の気候は、気温の年較差が大きい大陸性気候に属している。年間を通じて晴天の日が多く、冬季においても降雪量は少ない。

風は10月から4月にかけて西北西からの強い風が、5月から8月にかけては東寄りの偏東風（やませ）が強く吹き込む。

気 象

平成5年～平成9年の過去5年間の平均

月	気温			平均 湿度 %	降水量 mm	最深 積雪 cm	日照 時間 h	日照率 %	平均 風速 m/s	最多風向
	平均 ℃	最高 ℃	最低 ℃							
1	-6.9	4.3	-20.9	69	33.8	52	189.1	65	1.8	西北西
2	-4.8	6.1	-20.8	70	46.2	60	171.8	59	2.2	西北西
3	-0.9	11.6	-14.8	65	47.7	46	226.4	62	2.3	西北西
4	6.0	22.1	-3.8	64	60.0	7	204.8	51	2.4	西北西
5	11.2	26.9	0.8	72	101.2	—	173.8	39	1.9	東
6	14.2	29.6	4.8	80	41.8	—	147.4	32	1.6	東
7	19.6	33.1	11.4	82	41.0	—	147.8	32	1.6	東
8	19.6	32.8	11.4	83	201.5	—	113.6	26	1.4	東南東
9	16.4	29.0	6.9	81	224.2	—	116.2	31	1.4	東
10	10.0	22.7	-2.3	77	68.7	—	163.4	48	1.6	西北西
11	4.2	16.9	-6.6	69	63.0	4	168.9	58	2.1	西北西
12	-2.8	8.8	-16.3	68	25.7	21	168.6	60	2.1	西北西